

一般社団法人 日本薬学教育学会 第8回理事会 議事録

開催日時：令和5年5月9日（火）13：00～15：00

開催場所：WEB会議システム（ZOOM）による開催

理事：乾 賢一、中村 明弘、有田 悦子、入江 徹美、木内 祐二、小佐野 博史
高橋 一栄、平田 収正、松浦 正佳、三浦 典子、山田 成樹

監事：林 正弘

<欠席> 理事：石川 さと子、鈴木 匡、武田 香陽子、長谷川 洋一

監事：亀井 美和子

事務局：横川 和代

議事に先立ち、定款第35条第2項に基づき、議事録には乾理事長と林監事が署名又は記名押印することが確認された。

議事：

1. 2022年度第7回理事会の議事録案について（審議事項）

中村副理事長より2022年度第7回の議事録（案）に基づいて議事の概要が報告され、議事録として承認された。

2. 2022年度学会賞（教育研究奨励賞・教育実践奨励賞）審査結果について（審議事項）

学術担当の有田理事より2022年度学会賞の審査について応募者と審査員の利益相反を考慮した上で行ったことが紹介され、審査結果が資料に基づいて報告された。教育研究奨励賞には2名の応募があったが、選考委員会にて審議を行った結果、「該当者なし」と判断した旨が報告され、理事会にて承認された。教育実践奨励賞には1名の応募があり、選考委員会で審議の結果、この1名が候補者として理事会に推薦され、協議の結果、承認された。

受賞者と推薦者にはまず事務局から書面で通知し、その後、担当理事から第8回大会での受賞者講演を依頼することが確認された。また、教育研究奨励賞の応募者には、従来通り、担当理事より書面にてフィードバックを行うこととした、

教育研究奨励賞については、次年度の公募の際に、応募者に要件（対象論文や再応募など）をよりわかりやすく発信する必要があることが指摘された。

3. 新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラムを考えるFDワークショップの開催報告について（報告事項）

平田理事より2023年3月12日（日）に名古屋市立大学薬学部（田辺通キャンパス）において開催された標記ワークショップ（薬学実務実習委員会主催）の概要が資料に基づいて報告された。参加者は東海薬学教育連携コンソーシアムから48名、日本薬学教育

学会から 27 名の計 75 名（大学教員 56 名、薬局・病院薬剤師 18 名、その他 1 名）であった。

4. 第 8 回日本薬学教育学会大会準備状況報告（報告事項）

乾理事長および入江理事より資料に基づいて第 8 回大会の開催概要と準備状況が説明された。4 年ぶりの対面開催で、参加予定者は 400～600 名を見込んでいる。特別講演 1 題（宮尾千加子「くまモンの人間力」）、学会奨励賞受賞講演、特別企画シンポジウム 1 題、シンポジウム 14 題、ワークショップ 9 題が確定し、一般演題は約 100 件を予定している。また関連企画として、8 月 21 日（月）に「海外の薬学教育および薬剤師職能の動向に関する国際シンポジウム（案）」を開催する予定である。薬剤師研修シールの発行およびシンポジウムにおける非会員の旅費支援は行わない。

5. 投稿規定における倫理的規則の規則（審議事項）※資料あり

編集委員会の有田理事より、学会誌「薬学教育」投稿規定の「6. 倫理的配慮」について一部改訂を行うことが資料に基づいて説明され、協議の結果、承認された。本改訂については、ホームページや会員宛のメール等で周知することとした。

6. 「日本薬系学会連合」設立委員会報告（報告事項）

乾理事長より、2023 年 3 月 2 日に開催された「日本薬系学会連合」設立委員会（委員会の録画は事務局より 5 月 8 日に配信済み）の協議内容が報告された。本学会から支出する会費は 5～6 万円程度になる。

7. 「日本薬系学会連合」入会について（審議事項）

「日本薬系学会連合」設立時の構成メンバーになることが承認され、本年 7 月 3 日（月）10 時～12 時に長井記念ホールで開催される「日本薬系学会連合」設立総会に代表理事が参加することとした。

8. 委員会報告（報告事項）

・編集委員会 ※資料あり

入江理事より資料に基づいて、学会誌「薬学教育」の J-STAGE 公開状況および論文投稿・審査状況が報告された。編集委員の交代があり、山田純一委員が退任し、伊藤威先生が新委員に就任した。山田先生には礼状を、伊藤先生には委嘱状を送付する。

・薬学実務実習委員会

平田理事と小佐野理事より、コアカリ令和 4 年度改訂版に準拠した実務実習が実施されるまで本委員会で議論を行っていく方針が紹介された。

・倫理教育委員会

有田理事より、委員会で実施した倫理教育に関する調査結果を日本薬学会第 143 年会（2023 年 3 月、札幌）において連続する 2 題でポスター発表したことが報告された。第 8 回大会では改訂コアカリの「研究倫理」にフォーカスをあてたワークショップを実施する。

・ICT 教育委員会

新委員会の活動内容が木下委員長から提出された資料に基づいて中村理事より紹介

された。第8回大会でキックオフのシンポジウムを企画し、当該シンポジウムに向けてアンケート調査を実施する予定である。

- ・ 中長期ビジョンワーキンググループ

入江理事より、2022年10月16日に開催したワークショップの成果を参加者が第8回大会のシンポジウムやワークショップで実現すべく準備を進めていることが紹介された。

9. 担当理事報告

- ・ 連携担当理事の追加について（審議事項）

薬学教育関係団体との連携を充実するため、以下の連携担当を新たに追加することとした。

- 薬学教育協議会：鈴木理事、平田理事
- 薬学教育評価機構：平田理事、
- 国公立大学薬学部長（科長・学長）会議：平田理事

- ・ 学会ホームページ更新について（報告事項）

乾理事長より、学会ホームページの「委員会活動」に ICT 教育委員会のコンテンツが追加されたことが資料に基づいて報告された。

- ・ 第33回日本医療薬学会年会について（報告事項）

生涯教育担当の高橋理事より、第33回日本医療薬学会年会（仙台）においてシンポジウム「次世代を担う薬剤師の育成に向けた卒後教育の新展開」を日本保健医療福祉連携教育学会と共催することが報告された。

- ・ 多職種連携教育関連について（報告事項）

多職種および卒前・卒後の連携担当の木内理事より、医・歯・薬のコアカリの同時改訂を機会として、3つの学会の学術大会で相互にリンクしたシンポジウムを企画したことが報告された。

- 第8回日本薬学教育学会大会：「モデル・コア・カリキュラム同時改訂と多職種連携教育への期待と課題」文部科学省・医・歯・薬・看護
- 第55回日本医学教育学会大会：モデル・コア・カリキュラムを軸とした共にお互いからお互いについて学び合うための多職種連携教育の設計」医、薬、看護、臨床検査技師、社会福祉士
- 第16回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会：テーマ未定、医、薬、看護、臨床検査技師、診療放射線技師、作業療法士、社会福祉士

さらに、多職種間教育（IPE）勉強会の開催、全国の医療系大学・教育機関への IPE 実施の現状調査（アンケート調査）などを計画していることが紹介された。

10. 理事長報告

- ・ 職務執行状況報告（報告事項）

乾理事長より資料に基づいて職務執行状況が報告された。

- ・ The 11th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference (Aug. 4-6, 2023, Macau, China)

乾理事長より本年8月に開催される AASP Conference について概要が資料に基づいて紹介された。

11. 会員登録状況報告（報告事項）

事務局より資料に基づいて2023年5月8日時点の会員数の増減・会費納入状況が報告された。個人会員は750名で会費納入率87.3%、学生会員は63名で会費納入率は41.2%、機関会員は67件で会費納入率98.5%、賛助会員は8件で会費納入率100%であった。

乾理事長からは、機関会員として未入会の大学には引き続き入会をお願いしていく方針

が示された。また、事務局には次回の資料からは新規入会者数と退会者数を明記するよう依頼された。

12. その他

・次回理事会の開催について

本学会は7月から2023年度となるので、次回理事会は7月の決算承認が行える時期に開催することとした。

三浦理事には、第9回大会の開催日程とテーマを決定し、第8回定時社員総会および第8回大会において公表するよう依頼された。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、理事長及び出席監事がこれに署名捺印する。

2023年7月25日

一般社団法人 日本薬学教育学会

理事長 乾 賢一

監 事 林 正弘